

平成29年度

学校評価



平成30年2月吉日
甲府市立里垣小学校

保護者・地域の皆様へ

この1年間、保護者・地域の皆様には、里垣小学校の教育活動に対し、多大なるご支援・ご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

本年度も、学校評価アンケートにご協力をいただき、その結果と皆様からのご意見・ご要望・ご提案等をもとに、来年度に向けての方向性と改善策をまとめてみました。また、それらを受けて、今年度も学校関係者評価（委員として学校評議員とPTA正副会長）を実施し貴重なご意見をいただきました。

これらの評価を今後にかけて生かして、一つひとつの教育活動に丁寧に取り組み、子どもたちがより良い学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展をめざしていききたいと思います。そして、皆様の理解と参画を得ながらより一層信頼される開かれた学校づくりを進めるとともに、予算や人的配置など学校では解決できない部分については、県、市へ支援をお願いしていきたくと考えております。

多くの皆様から、子どもたちの良さや、誇りに思うこと・学校への協力・激励・感謝の言葉を沢山いただき、里垣小の良さを再確認できました。本校の伝統を大切にするとともに、子どもたちの可能性を一層伸ばしていけるよう、教職員一同英知を結集して努力をして参ります。

校長 柏木 精一

取組状況・成果・課題

改善策

安全安心な学校にするために

（自分の身を守る力を育てる）

- ・今年度も防災訓練を5回、防犯訓練を1回実施した。しかし、自分一人で対応することに自信が持ていない児童が見られ、様々な場面での対応について更に綿密な指導を行うことが課題である。
- ・朝の集団登校に比べて、下校時の歩行に心配をする意見が保護者にあり、下校を含めた放課後の児童の安全を地域とともに対策を考えることが課題である。
- ・今年度は、北館と体育館のリニューアルが行われ、児童からは校舎がきれいになったとの意見が多かった。一方で、児童の廊下や階段の歩行の仕方などについては、児童会での取り組みにも関わらずなかなか改善していないところもみられる。児童会活動と連動して、児童の意識を向上する取り組みを継続することが課題である。

- 児童が「自ら考え行動する」意識を高めるために、予告なしの防災訓練を継続して実施していく。
- 児童の登下校時の安全への意識が高まる指導を継続するとともに、家庭にはマメルメール等を通して情報を発信していく。
- 廊下や階段の歩行、校舎内外の過ごし方については、児童会の生活目標と関連させながら繰り返し指導していく。

学校関係者評価委員会でのご意見を受けて

- ・スクールゾーンに許可車以外が侵入することがある。取り締まりや児童の安全を守るグリーンラインの設置などを地域の方とともに市や警察に働きかけていきたい。
- ・見守り隊の組織はないが、様々な形で地域の方の協力を得て子どもを見守っていきたい。

信頼される学校にするために

（保護者・地域との連携・交流を充実する）

- ・地域との連携については、教師全員が肯定的な評価であった。開府500年等の地域に関連した学習や地域の特性を生かした活動は、保護者からの評価も高い。昨年度から始まった「地域ぐるみボランティア活動」の取組なども浸透すると、更に連携が深まると考えられる。
- ・今年度も学年、学校だよりやホームページなど学校の取組を積極的に知らせようと努力をしてくれているが、ホームページの更新の頻度や内容については、保護者から厳しいご意見もいただいた。次年度に向けてどのような形で情報提供をするかを検討することが課題である。
- ・保護者の相談については、教師の努力が保護者の肯定的な評価の向上として認められたようである。今後も、外部機関との連携も含めてきめ細かい対応を心がけ、保護者のニーズに合った相談体制に努める必要がある。

- 里垣子ども広場、地区運動会等地域の行事が多くあるので、職員も自分の分掌や学年と関連する行事に引き続き参加することにより、地域や保護者との交流を図っていく。
- 学年で行事や活動をホームページにアップする。また、更新したことを呼びかけ、学年だよりで伝える。
- 保護者が学校に相談しやすい関係を築けるように、家庭訪問や懇談会の機会に学校や家庭の様子の情報交換をしたり、連絡帳や電話などで日常的に連絡を取ったりできるようにする。
- ・スクールカウンセラーを有効活用するために、来校日を知らせ、児童や保護者への相談を充実させる。

学校関係者評価委員会でのご意見を受けて

- ・今後も、地域ぐるみボランティアの方々のお力を得る中で教育活動を充実していきたい。
- ・保護者への教育相談体制の充実に努めたい。



アンケートの詳細については、里垣小学校のホームページをご覧ください。

「里垣小学校」で検索してください。

取組状況・成果・課題



改善策

かしこい子どもを育てるために

「言語活動を充実させ、基礎基本の学力を育てる」

- ・教師は、新学習指導要領の完全実施に向けて道徳や英語を中心に指導方法等の研究を行ってきた。基礎・基本的な学力については、昨年度までの継続研究の成果がさらに浸透して評価が上がっている。
- ・朝読書、ボランティアの方による読み聞かせ、家庭での読書等に継続的に取り組んできており、児童、保護者にもその成果が感じられるようになりつつあり、今後も家庭と連携した取り組みを進める必要がある。
- ・教師が工夫をした授業に努めており、その成果として児童、保護者の方々にも授業が分かりやすいと回答した割合が高まっている。今後も一層、分かりやすく楽しい授業を行い、基礎基本の学力を育てていかなければならない。

「一人ひとりを大切にしたいきめ細かな学習指導をする」

- ・T Tや少人数による指導が学習の理解を進めると感じる児童や保護者は増加しているが、学校体制として十分な時間の確保が出来なかったと反省している。次年度に向けて指導体制の工夫改善をしていかなければならない。
- ・教師は児童が分からない時は個別指導を取り入れながら対応していると評価する回答が保護者に増えており、各担任も、きめ細かい指導のために様々な時間のやりくりに努めたい。また、宿題を含めた家庭学習については、学年×10分が目安であることが大分浸透してきている。保護者意見の中に、宿題の質や量について改善を求める声もあり、宿題や家庭学習の内容について教師間で共通理解を図り取り組んでいく必要がある。
- ・教師は、児童一人ひとりの努力や成果を認め励ましていると捉えており、児童や保護者も昨年度より肯定的な評価が高くなっている。保護者の中にも、教師が熱心であり子どもたちの個性に合わせて認め励ます態度で接していることを評価して下さっている意見が多い。今後とも、児童の様子を把握して児童を励まし自己肯定感を高めてあげたい。

思いやりのある子どもを育てるために(温かく豊かな生活環境をつくる)

- ・あいさつに関しては、これまでの取り組みが認められ、特に保護者の方々に肯定的な評価が多くなっている。保護者の中でも高学年を中心としてあいさつを良くしてくれるという意見が多く寄せられている。しかし、校内で会ったときにあまりあいさつをしないという意見もあり、更にどんな場面でも気持ちよくあいさつができるようにしていきたい。
- ・言葉遣いについては、子どもたちは、日頃から気を付けながら生活するということにまでは至っていない面があり、今後とも継続し意識して取り組んでいくことが課題である。
- ・児童や保護者は、学年を問わず子どもたちの仲が良いことをとても高く評価している。特に保護者は、かえで支援学校との交流が子どもたちの周りを思い遣る心を育てていると感じているようである。
- ・保護者は、1クラスの児童数も適当であり、子どもたちへの目が行き届いている事が教師を信頼できる点として評価している。児童からも優しく相談しやすい先生が多いとの声が多く、先生が励まし認めてくれるとの回答は前年度より肯定的な評価が高い。今後、この状態が持続できるように取り組みを続けたい。

元気な子どもを育てるために(運動に親しみ健康な体力づくりをめざす)

- ・体育の時間や朝の体力づくり等において工夫した活動に努めてきたが、保護者からは体力の低下を心配する声も挙げられていた。今後は、児童が体を動かすことが好きになる活動を取り入れ、体力の向上につなげていく必要がある。
- ・たてわり班で行う活動については評価が高いが、異年齢の集団で体力づくりやレクリエーション的な外遊び等、工夫した活動が行われている。この活動が児童や保護者から運動に親しみながら体力向上に繋がっているとの肯定的な評価を得ている。今後、この活動を継続することで子どもたちが楽しみながら外遊びや体力づくりを続けられるようにしたい。
- ・食育・健康教育については、今年度も給食主任、養護教諭、栄養教諭を中心として取り組み、折あるごとに学級での食育・健康教育を行ってきた。しかし、児童が食生活に注意して生活するところまでは至っていないと感じている保護者もあり、児童が自分から進んで行えるような取組や家庭との連携を視野に入れた取組を模索していくことも課題である。

- 漢字や計算力の基礎学力を定着させるために、朝学習や授業のはじめの時間等に、継続的に計算プリントや漢字テスト等に取り組みさせる。また、発達段階に応じた音読や暗唱に取り組みさせる。
- 授業の始めの「見通し」と終盤の「振り返り」を大事にした授業を実践する。特に、算数の授業においては、問題場面を読み取り、自分の考えを図表などに表して立式する力を育てていきたい。
- 読書力が身に付くように、読書週間の取り組みや家庭の協力を得る中で家読を行い、児童の読書に対する意欲を高めていく。また、朝読書の時間に読み聞かせを行うとともに、児童の発達段階に応じた本を紹介し読書の質的向上を図る。

学校関係者評価委員会でのご意見をを受けて

- ・家読や読み聞かせ等の取組が子どもの読書への興味や関心を喚起している。高橋源一郎著「君たちはどう生きるか」が良書との評判である。今後も良書を図書室において子ども達の読書活動を盛んにしていきたい。

- 教科の学習に関する国や県で実施する学力調査を分析し、児童の実態に即した指導に努める。
- 可能な限りT Tや少人数指導を可能にする計画を立てるとともに、休み時間に個別指導を行う体制を整える。
- 「家庭学習の手引き」を活用し、発達段階に応じた家庭学習の取り組み方や内容を指導し家庭学習の充実を図る。

学校関係者評価委員会でのご意見をを受けて

- ・T Tや少人数指導は人的配置の問題があり難しい面はあるが、様々な工夫で出来る限りの対応をしたい。
- ・教師は子どもと向き合う時間を大切に、子どもの伸びをサポートすることに努めていきたい。
- ・学力向上には家庭での過ごし方も大きく影響しており、今後も家庭の理解と協力を得よう努めていきたい。

- 児童会活動や道徳の時間などを通して、校外からの来客など相手に応じた挨拶ができるよう、学年に応じた指導をしていく。今後も児童会を中心としたあいさつ運動を続けていく。
- 道徳の時間や日々の指導の中で、相手に対する思い遣りの心や節度ある態度を育てる中で、正しい言葉遣いに気付かせていくとともに、家庭へも協力を呼び掛けていく。
- 今年度に引き続き、かえで支援学校との交流やたてわり活動を行うことで、児童に思い遣る心を育てていく。
- 今後ともいじめの早期発見、早期対応に心がけ、児童の生命尊重や思い遣りの心を育てていく。
- 児童が話しやすい雰囲気をつくり出すために、教師が児童と関わる時間を積極的に生み出していく。

学校関係者評価委員会でのご意見をを受けて

- ・先生と子ども達、先生同士の関係性の良さを感じるとのご意見を今後もいただけるように努めていきたい。
- ・伝統となっているかえで支援学校との交流やたてわり活動を通して、思い遣りの心を醸成していきたい。

- これまでのように今後も指導の工夫を行うことで、児童が体育に進んで取り組めるようにする。学習カードを活用し、個々の目標をもたせることで一人ひとりの児童に達成感をもたせられるようにする。
- 体力づくりやたてわり活動レクリエーション的な外遊びに関しても工夫した活動が行われている。今後も子どもたちが楽しみながら外遊びや体力づくりを続けられるようにする。
- 教師は、学活や給食の時間を通して、食や健康の大切さについて児童に理解させる。また、保健だよりや給食だよりの配付を通して家庭の協力を得る。

学校関係者評価委員会でのご意見をを受けて

- ・子どもの体力向上には、家庭に帰ってからの外遊びが重要であるので、室内のゲームより外遊びを増やしたい。
- ・学校全体として残さいが多いが、無理なく好き嫌いをなくす取組を継続していきたい。